令和８年の職場における熱中症による死傷災害の発生状況

（令和８年９月末速報値）

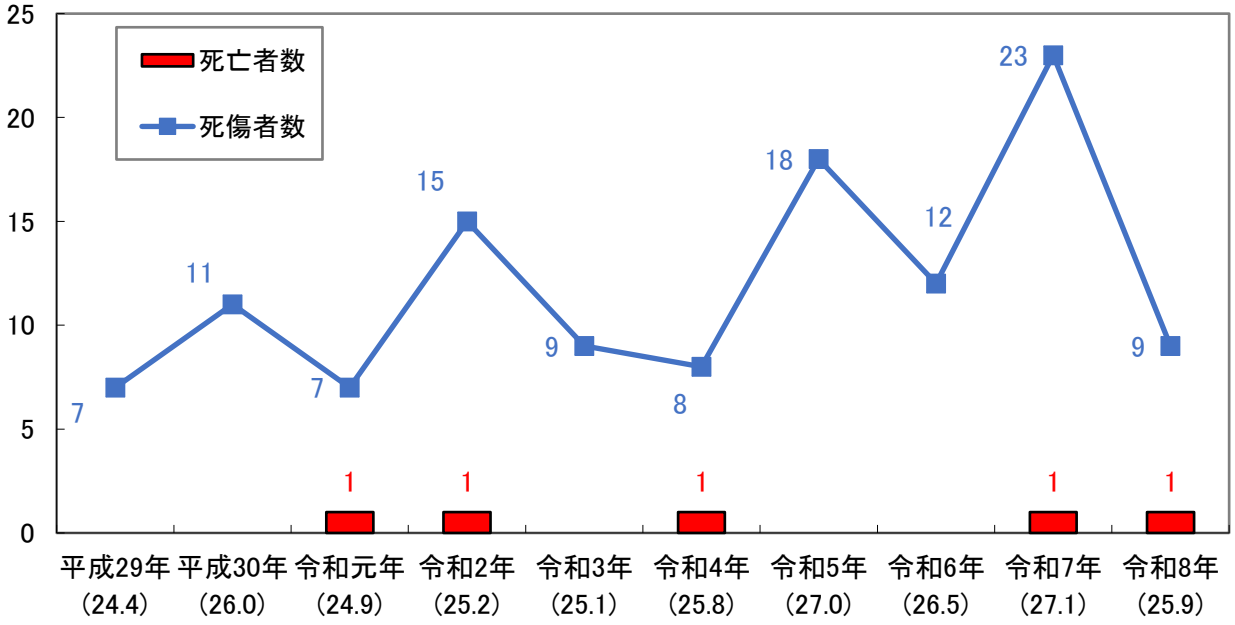
令和８年 10 月
富 山 労 働 局

１　職場における熱中症による死傷者数の推移（過去 10 年間）

富山県内における、令和８年の職場における熱中症による休業４日以上の死傷者数は、令和７年より 14 人減少して９人となった。また、死亡者が１人発生した。（令和８年９月 30 日時点）※

減少した要因としては、①夏季（６月～８月）及び９月における平均気温が令和７年より低かったこと、②令和７年６月の労働安全衛生規則の改正により、熱中症の重篤化を防止するための「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が事業者に義務付けられたことに加え、近年の気候変動により熱中症に対する社会的な関心が高まった結果、事業場における熱中症対策の取組が一定程度推進したこと、が考えられる。

職場における熱中症による死傷者数（H29年～R８年）



※ 括弧内の数値は６月～８月の富山市の平均気温（℃）を示す（気象庁ＨＰのデータから引用）

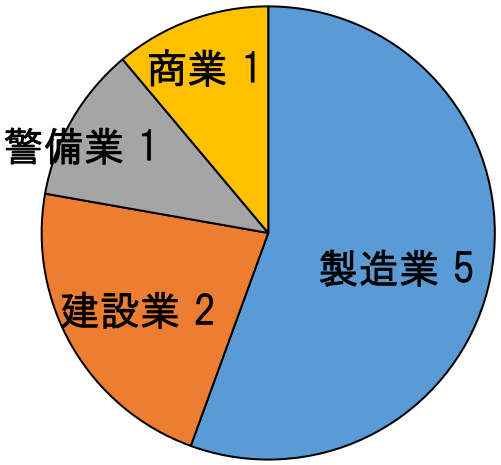
２　業種別発生状況

令和８年の職場における熱中症による休業４日以上の死傷者数（以下「熱中症による死傷者数」という。）を業種別にみると、製造業が５人（56%）で最も多く、次いで建設業２人（22%）、警備業及び商業でそれぞれ１人（11%）発生した。

なお、死亡災害は建設業の事業場で発生した。

職場における熱中症の発生事例としては、工事現場や交通誘導といった屋外作業だけでなく、工場内等の屋内における高温の暑熱環境下で発症したものが認められた。また、作業中ではなく、作業後や帰宅後に発症したものや、工場内での空調設備のある作業場所であっても、当該作業場と暑熱場所との往復による寒暖差により発症したものも認められた。

業種別による死傷者数（令和８年）

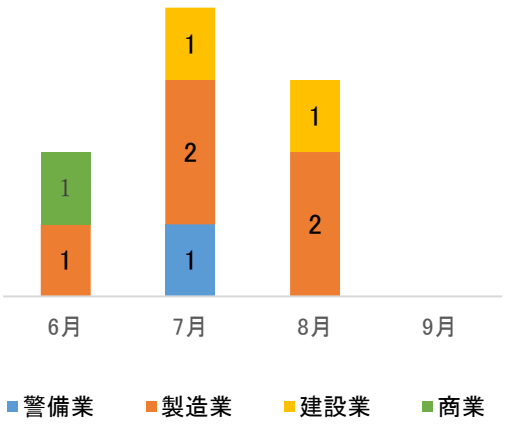


３　月別・時間帯別発生状況

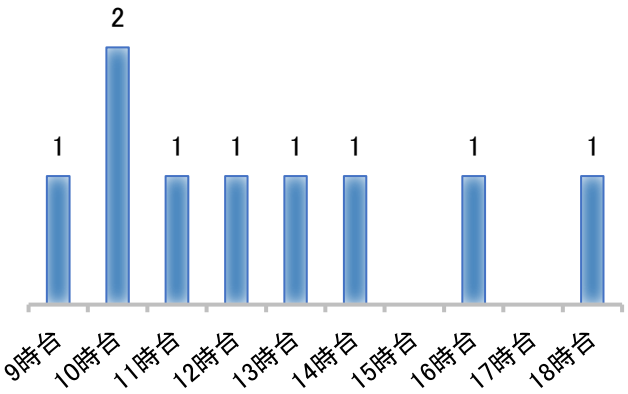
令和８年の熱中症による死傷者数を発生月別にみると、７月が４人と最も多く、次いで次いで８月が３人、６月が２人となり、９月は発生しなかった。

時間帯別にみると、10 時台が２人で最も多く、全体の半数以上が午前に発生した。

月別熱中症による死傷者数
（令和８年）



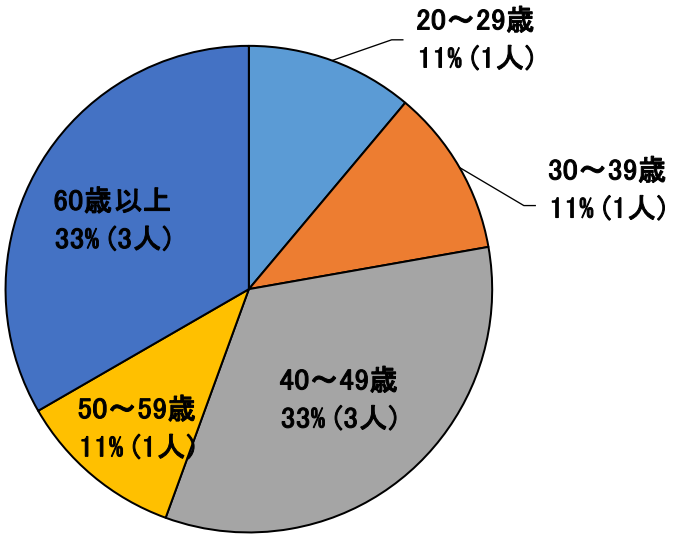
時間帯別熱中症による死傷者数
（令和８年）



４　年代別発生状況

令和８年の熱中症による死傷者数を年代別にみると、60 歳以上及び 40 歳代がそれぞれ３人と最も多く、20 歳代及び 30 歳代、50 歳代がそれぞれ１人となった。

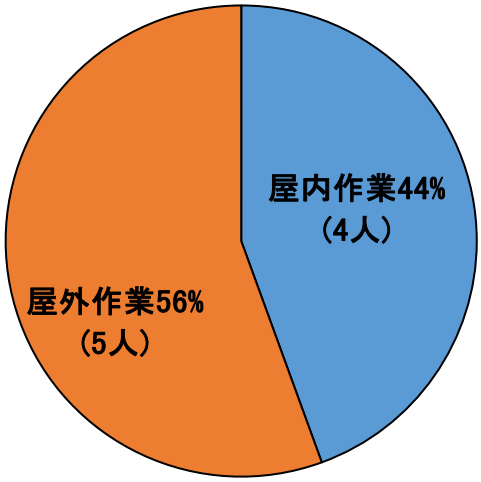
年代別熱中症による死傷者数（令和８年）



５　被災者の従事業務の屋内外別の状況

令和８年の熱中症による死傷者数を従事作業の屋内外別にみると、屋外作業が５人、屋内作業が４人となった。

屋内外別熱中症による死傷者数（令和８年）



６　令和８年の職場における熱中症による死傷災害の発生状況（休業４日以上）（

	発生月 時間帯	業種	年齢	経験 年数	休業 見込	場所	気温 湿度	事案の概要
1	6月 10 時台	商業	60 代	1 年	5日	屋外	25.9℃ 62%	花の水やり作業に従事していたところ、発症したもの。
2	6月 10 時台	製造業	50 代	7年	6日	屋内	24.5℃ 54%	検品作業に従事していたところ、発症したもの。
3	7月 11 時台	建設業	60 代	46 年	死亡	屋外	30.2℃ 61%	朝から草刈り作業に従事し、昼前に帰路についたが、翌朝、道路上に駐車した車の中で発見され、死亡が確認されたもの。
4	7月 18 時台	製造業	20 代	2ヶ月	10 日	屋内	30.8℃ 74%	製品の品質を確認する作業に従事したところ、帰宅後に発症したもの。
5	7月 14 時台	警備業	40 代	7年	4日	屋外	33.3℃ 58%	工事現場において交通誘導作業に従事していたところ、発症したもの。
6	7月 12 時台	製造業	40 代	3年	10 日	屋内	35.6℃ 58%	工場内において原料を炉に詰める作業に従事していたところ、発症したもの。
7	8月 13 時台	製造業	40 代	3月	10 日	屋内	32.9℃ 71%	工場内において製品のバリ取り作業に従事していたところ、発症したもの。
8	8月 9時台	建設業	60 代	10 年	4日	屋外	30.0℃ 75%	舗装工事に従事していたところ、発症したもの。
9	8月 16 時台	製造業	30 代	3年	4日	屋外	33.1℃ 61%	製品の配送先で荷下ろし作業に従事していたところ、発症したもの。

※「気温、湿度」は災害発生現場最寄りの気象台観測地点における観測値による。

7　過去 10 年間の死亡事例（過去 10 年間）

令和８年に死亡災害が１件発生したほか、過去 10 年間では職場における熱中症による死亡者が以下のとおり発生している。

発生年月 時間帯	業種	年齢	経験年数	気温	湿度	事案の概要
R元．６ 13 時台	製造業	40 歳代	1年未満	29.8 ℃	77%	暑熱な工場内での業務を終了し、帰宅のため駐車場に向かったところ、駐車場で倒れ、病院に搬送されたものの、熱中症が原因で死亡した。
R2．５ 13 時台	製造業	30 歳代	9 年	29.7 ℃	59%	午前中から、直射日光の下、屋外で機械修理を行っていたところ、正午過ぎ頃までに体調不良となり、事務所で休憩していたが、症状が回復せず、夕方、救急車で病院に搬送されたものの、熱中症が原因で死亡した。
R4．６ 不明	農業	50 歳代	33 年	29.3 ℃	68%	農場の見回りに行った被災者が、農場近くの路上で、社用車の中でぐったりしているところを発見され、その場で死亡が確認された。 屋外作業を行っていたことなどから、死因は熱中症とされた。
R7．７ 12 時台	製造業	40 歳代	1年	32.7 ℃	74%	設備の補修作業を行っていた被災者が休憩所に戻って来なかったことから、同僚が様子を見に行ったところ、意識不明の状態で発見され、救急搬送後に死亡が確認された。
R8．７ 11 時台	建設業	60 歳台	46 年	30.2 ℃	61%	朝から草刈り作業に従事し、昼前に帰路についたが、翌朝、道路上に駐車した車の中で発見され、死亡が確認されたもの。